(2) 死　亡

a．粗死亡率（死亡率）

年間の死亡数がその年の年央人口（10 月 1 日現在の人口）に占める割合であり，人口千対で表される．死亡率は昭和 25（1950）年には 10.9 であり，その後徐々に減少してきたが，昭和 58（1983）年ごろからは老年人口が多くなったため，死亡する人数が増え，平成 30（2018）年の粗死亡率は 11.0 と増加傾向にある（表 2-4）．

b．年齢調整死亡率

年齢構成の違う地域や集団を比較する際には，基準人口を用いて年齢構成のひずみを補正したもの（年齢調整死亡率，人口千・10 万対）が用いられる．現在は昭和 60（1985）年の年齢別人口構成を基準としている（表 2-5）．保健医療水準が向上したため，年齢調整死亡率は年々低下しており，平成 30（2018）年は，男性 4.6，女性 2.5 となった（表 2-4）．

c．主要死因別死亡率

わが国における死因別の粗死亡率の推移を図 2-3 に示す．平成 30（2018）年の死因第 1 位の悪性新生物〈腫瘍〉は全体の 27.4%，第 2 位の心疾患は 15.3%，第 4 位の脳血管疾患は 7.9%で全体の 50.6%に相当する．第 5 位の肺炎は 6.9%で減少しているが，誤嚥性肺炎によるものを独立させた影響である．なお，死亡診断書の記載要領が変更（できるだけ疾患終末期の心不全や呼吸不全とは記載せずに，原病を記載する）されたため，平成 7（1995）年に脳血管疾患が増加し，心疾患が減少した．

死因第 1 位の悪性新生物〈腫瘍〉の部位別の年齢調整死亡率の年次推移を図 2-4 に示す．男女とも悪性新生物〈腫瘍〉による死亡率は緩やかに減少傾向にある．男性は，気管・気管支および肺が増加し，平成 7（1995）年以降

●表 2-4●　粗死亡率・年齢調整死亡率（人口千対）の推移

	粗死亡率[1]			年齢調整死亡率[2]	
	総　数	男	女	男	女
昭和 25 年（'50）	10.9	11.4	10.3	18.6	14.6
45（'70）	6.9	7.7	6.2	12.3	8.2
平成 2（'90）	6.7	7.4	6.0	7.5	4.2
12（'00）	7.7	8.6	6.8	6.3	3.2
22（'10）	9.5	10.3	8.7	5.4	2.7
27（'15）	10.3	10.9	9.7	4.9	2.6
29（'17）	10.8	11.4	10.2	4.7	2.5
30（'18）	11.0	11.6	10.4	4.6	2.5

注：1）年齢調整死亡率と併記したので粗死亡率と表したが，単に死亡率といっているものである．
　　2）年齢調整死亡率の基準人口は「昭和 60 年モデル人口」であり，年齢 5 歳階級別死亡率により算出した．
資料：厚生労働省「人口動態統計」
（厚生労働統計協会 編：国民衛生の動向 2019/2020，厚生労働統計協会，2019，一部改変）

●表 2-5●　基準人口（昭和 60（1985）年モデル人口）

年　齢	基準人口	年　齢	基準人口	年　齢	基準人口
総　数	120,287,000	30～34 歳	9,130,000	65～69 歳	4,511,000
0 ～ 4 歳	8,180,000	35～39	9,289,000	70～74	3,476,000
5 ～ 9	8,338,000	40～44	9,400,000	75～79	2,441,000
10～14	8,497,000	45～49	8,651,000	80～84	1,406,000
15～19	8,655,000	50～54	7,616,000	85 歳以上	784,000
20～24	8,814,000	55～59	6,581,000		
25～29	8,972,000	60～64	5,546,000		

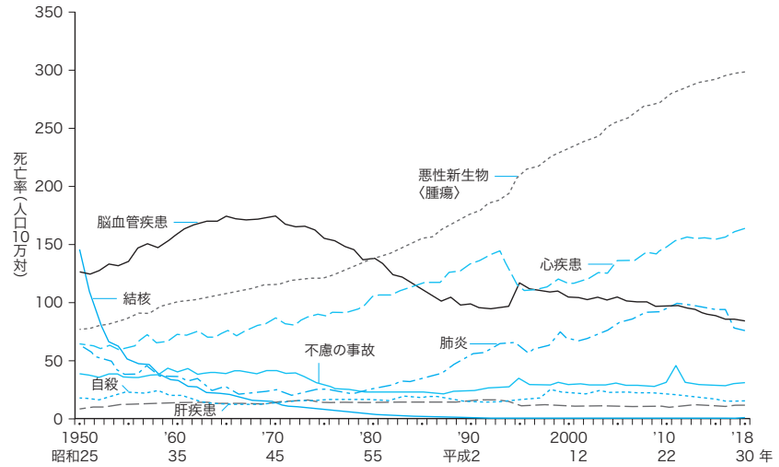
50 歳以上死亡割合

全死亡数のうち 50 歳以上の死亡数が占める割合を 50 歳以上の死亡割合（PMI 50：proportional mortality indicator）という．子どもや若い人の死亡が少なく，高齢者の死亡が多くなると数値が大きくなる．つまり，数値が高いほど健康水準が高いことを示す指標として活用されている．わが国では平成元（1989）年に 90%台に入り，その後増加傾向にあり，平成 22（2010）年では 95.8%に達している．

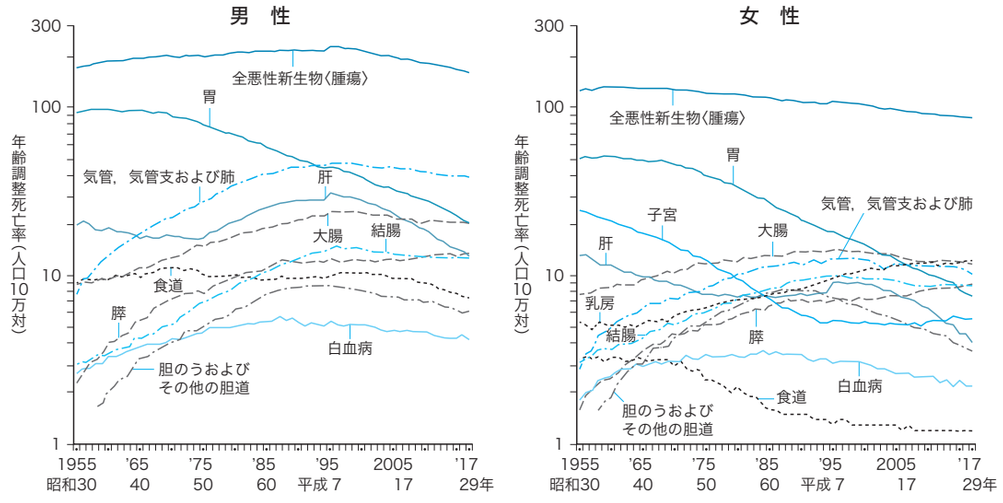
ただし最近では，65 歳以上死亡割合で示すようになり，わが国の平成 28（2016）年の結果は 89.5%であった．

死因統計の分類

WHO の「疾病および関連保健問題の国際統計分類第 10 回修正」（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Health Problems, Tenth Revision:ICD-10）に準じて作成された「疾病，傷害および死因分類表」にしたがって行われている．



●図 2-3●　主要死因別にみた死亡率（人口 10 万対）の推移
注：死因分類は ICD-10（2013 年版）準拠（平成 29 年適用）による．なお，平成 6 年までは ICD-9 による．
平成 30 年は概数である．
資料：厚生労働省「人口動態統計」
（厚生労働統計協会 編：国民衛生の動向 2019/2020，厚生労働統計協会，2019）



●図 2-4●　部位別にみた悪性新生物〈腫瘍〉の年齢調整死亡率（人口 10 万対）の推移
注：1）大腸は，結腸と直腸 S 状結腸移行部および直腸を示す．ただし，昭和 40 年までは直腸肛門部を含む．
　　2）結腸は，大腸の再掲である．
　　3）肝は，肝および肝内胆管を示す．
　　4）年齢調整死亡率の基準人口は「昭和 60 年モデル人口」である．
資料：厚生労働省「人口動態統計」
（厚生労働統計協会 編：国民衛生の動向 2019/2020，厚生労働統計協会，2019）